



「企業の経営層にインターンシップ体験」資料

大学生の就職活動実態・
インターンシップ意識
～「学生の就労意識調査」より抜粋～

結果サマリー

平成26年4月7日

一般財団法人 雇用開発センター

調査概要	1
対象者の属性	2
結果のまとめ	3
結果の詳細	
①インターンシップの参加率	4
②インターンシップ情報の入手先	5
③インターンシップの参加期間	6
④インターンシップで参加したプログラム	7
⑤インターンシップ先企業の選択理由	8
⑥インターンシップ後の就職意向変化	9
⑦インターンシップの満足度	10
⑧インターンシップ不参加の理由	11
⑨インターンシップのイメージ	12
⑩参加したいインターンシップ	13
⑪インターンシップに参加したい企業	14
⑫インターンシップ先を探し始める時期	15
⑬インターンシップ先を探し始める時期（3年生の文・理別）	16
⑭インターンシップの参加時期	17
⑮インターンシップの参加時期（3年生の文・理別）	18

1. 調査背景と目的

- インターンシップ制度は、近年、企業側からも学生側からも急速に関心が高まっている。
- 就職活動中の学生において、インターンシップ制度の趣旨がどの程度理解され、また学生はどのように参加しようとしているのか。
- 「学生の就労意識調査」の中で、学生側からの意見を聴取することで、企業側からは見えない側面を明らかにすることが目的である。

2. 調査実施時期

- 2014年2月27日～3月5日

3. 調査対象者

- 18～25歳の男女学生
- 四年制大学の大学1年生～4年生、及び大学院生
- 首都圏・近畿圏・名古屋圏にある大学の学生
- イプソス株式会社 J-panelより抽出

4. 有効回収数

	男性	女性	計
大学1～2年生	90	94	184
大学3～4年生	163	168	331
大学院生	55	46	101
計	308	308	616

5. 調査方法

- オンライン調査

6. 調査実施機関

- イプソス株式会社

- 調査対象者は四年制大学生だが、今回の調査では、3~4年生を他学年よりも多くしており、また大学院生も含んでいる。
- また、学卒後に就労を希望する者か院生への進学希望者を対象とした。
- 対象者の中で、就職活動を終えた、または就職活動中の学生が約半数。うち、就職内定者も約半数であった。

図. 性別 (n=616/%)

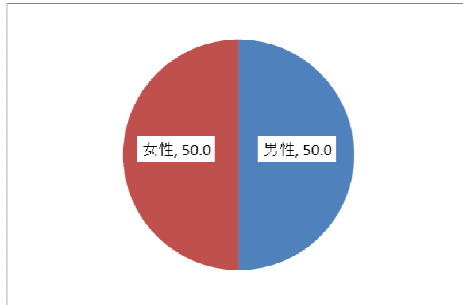


図. 国公立 (n=616/%)

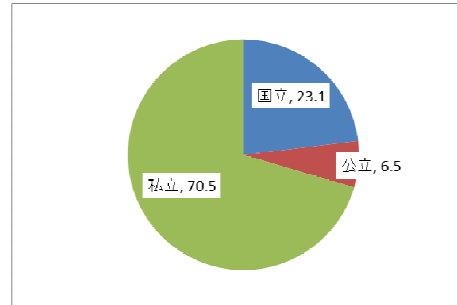


図. 学卒後の希望 (n=616/%)

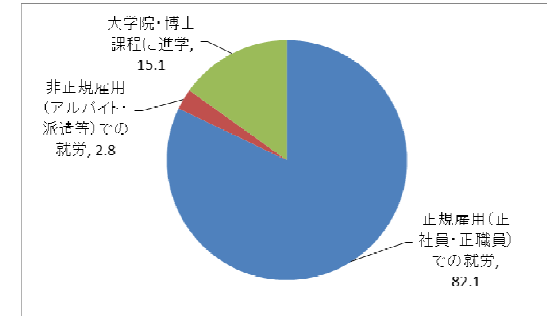


図. 学年 (n=616/%)

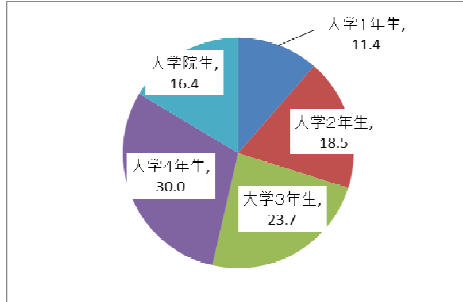


図. 文・理系 (n=616/%)

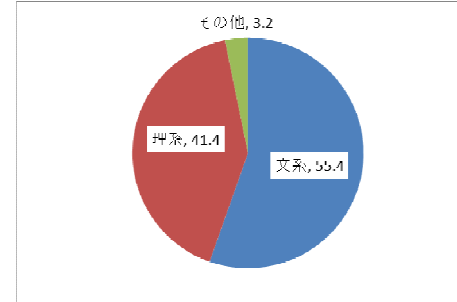


図. 就職活動 (n=616/%)

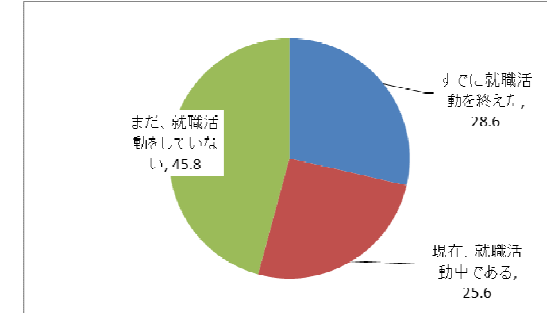


図. 卒業年次 (n=616/%)

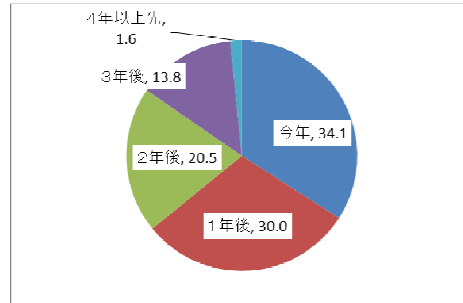


図. 学校の所在地 (n=616/%)

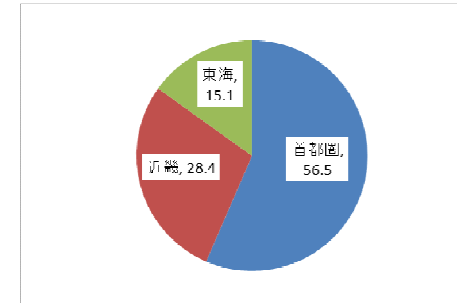
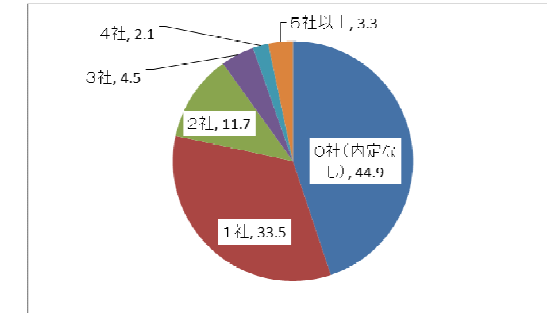


図. 内定数 (n=334/%)



今回の調査において、学生の**インターンシップ参加率は、31.1%**であった。前回調査(『学生の就労見通しと生活に関する調査』2011年2月)では26.7%であり、微増という結果となった。この参加率は、企業セミナー(50.6%)や就職セミナー(39.2%)への参加率には及ばないが、**学生にとっては関心の高い就職活動内容**ではありそうだ。それは別の学生全員への質問で、「インターンシップには参加したくない」と回答した人が、1割に満たなかったことでもわかる。今回の調査より、目立った調査結果を下記の通り示す。

1 「就職情報会社」から、約4割の学生がインターンシップの情報を入手

インターンシップの情報は、「大学の就職課」が最も多かったが(53.8%)、次いで多かったのは「就職情報会社」であった(39.4%)。

2 インターンシップの参加期間は、「3日～1週間」が約4割

インターンシップへ参加する期間は、「3日～1週間」が最も多く39.4%であった。次いで、「1日」の超短期間が、26.0%であり、1か月以上の長期は少ない。参加プログラムは「見学・体験型」が最も多く、52.9%であり、「ミッション型」「講義型」「実務型」などと比較して参加率が高いことから、短期間のプログラムに人気があるようだ。

3 インターンシップに参加して就職しなくなった:33.7%

「インターンシップに参加して就職しなくなった」人が33.7%と、3人に1人がプラスに転じている。逆に「参加して就職しなくなった」人は15.4%と少ない。インターンシップに参加して「仕事・事業内容が理解できた」の満足度が約9割と高かったことが一因とも言えるであろう。

4 インターンシップ先の企業タイプは、「こだわらない」:4～5割

インターンシップ先には、「民間」の「安定企業」を希望するが、どの企業タイプでも「こだわらない」と回答した人が半数近くに及んでいることから、参加したい企業は、様々なタイプの企業にも及ぶと思われる。

5 インターンシップ先を探すのは、「3年生の4月～8月」

インターンシップに参加するために、その受け入れ先を探し始める時期は、3年生の4月～8月頃が多い。文系では「3年生の4月」がピークで、「8月」まで続き、一方、理系では「3年生の8月」がピークで、文系と比較してやや出足が遅れている。

6 インターンシップへの参加時期は、「3年生の8月」がピーク

インターンシップに参加する時期は、3年生の6月頃から増えだし、参加のピークは圧倒的に「3年生の8月」である。

インターンシップ参加率=31.1% 参加社数 1社=66.3%

- 現在就職活動を行っている、または就職活動が終わった学生に、就職活動内容を聞いたところ、インターンシップには、31.1%の学生が参加している。
- 大学の所在地別で見ると、首都圏・東海に比べ近畿で低い参加率(25.0%)であった。また、親との同居別では「非同居」、職業能力の自己評価では「自信なし」で低い。
- また、インターンシップの参加企業社数は、1社が66.3%で複数社参加している人は4割に満たない。

図. 就職活動内容 (n=334/%)

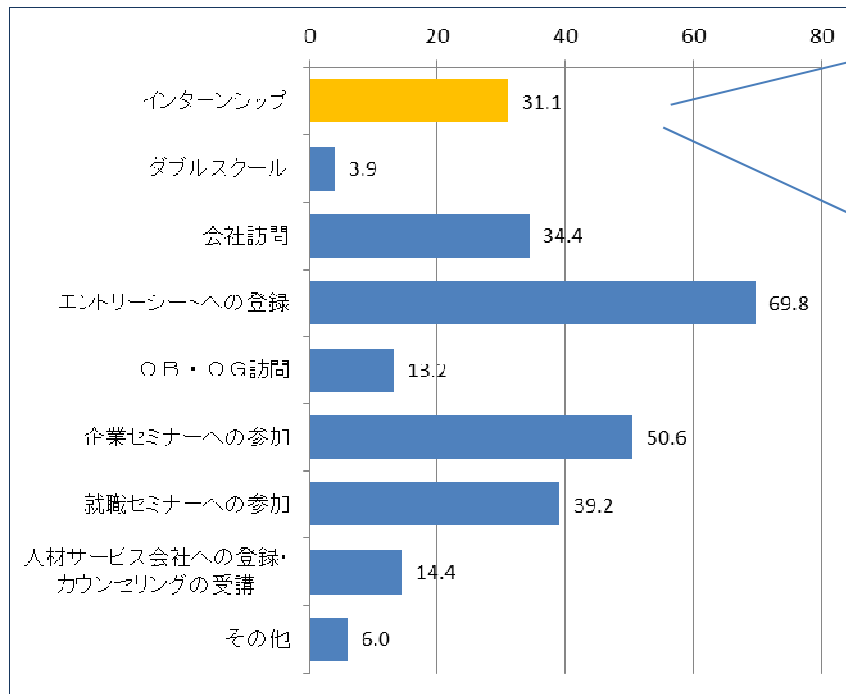
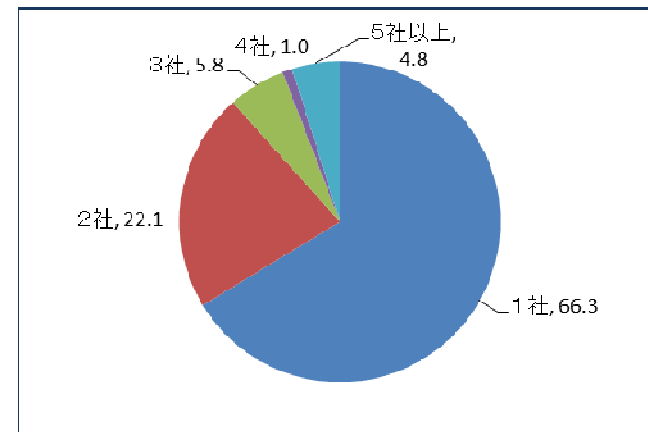


表. 属性別のインターンシップ参加率 (n=334/%)

属性	n	%
【大学所在地別】		
首都圏	189	33.9
近畿	96	25.0
東海	49	32.7
【親との同居】		
同居	235	34.0
非同居	99	24.2
【職業能力の自己評価】		
自信あり	103	39.8
どちらともいえない	127	28.3
自信なし	104	26.0

図. インターンシップ参加社数 (n=104/%)



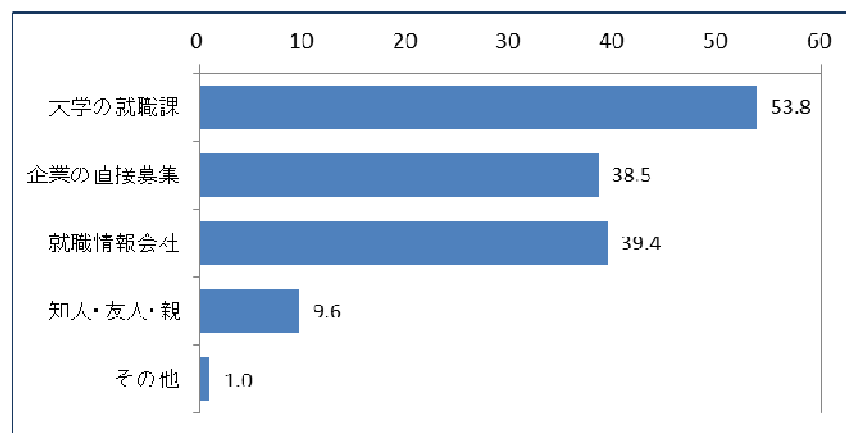
平均: 1.59社

Q. あなたは、どのような就職活動をしていますか(しましたか)。(いくつでも)

インターンシップ情報は「大学の就職課」(53.8%)だけではなく、「就職情報会社」(39.4%)からも入手

- 就活学生は、インターンシップの情報はどこから入手しているのか。
- 「大学の就職課」が53.8%と最も多いが、「就職情報会社」も39.4%で、「企業の直接募集」38.5%を上回った。

図. インターンシップ情報の入手先 (n=104 / %)

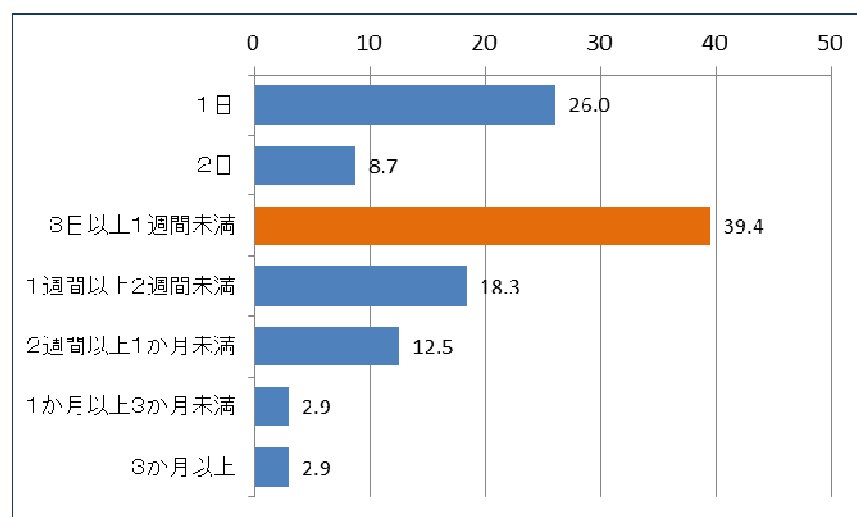


Q. 参加したインターンシップの情報はどこから得ましたか。(いくつでも)

インターンシップは「短期」の参加 -----「3日～1週間」39.4%

- インターンシップの参加期間は、「3日以上1週間未満」が39.4%と最も多く、「1日」の「短期」が26.0%と続く。
- 「1週間以上2週間未満」も18.3%あったが、「1か月以上」の「長期」は少ない。

図. インターンシップの参加期間 (n=104 / %)

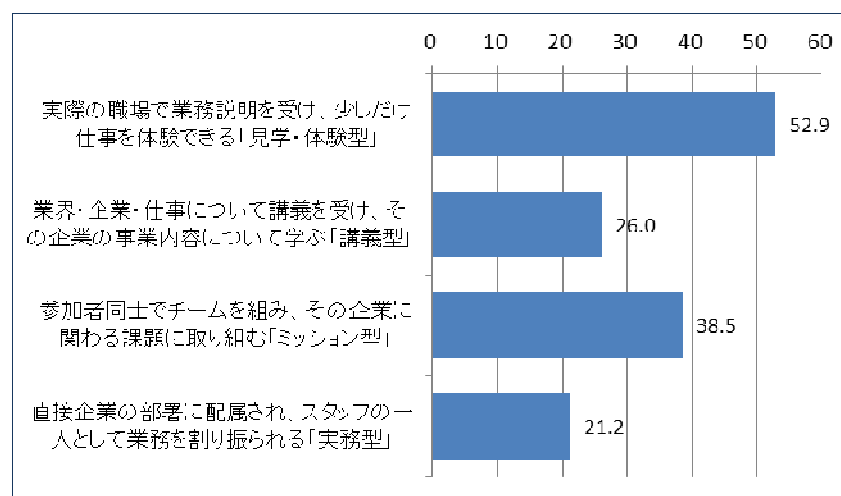


Q. インターンシップの参加期間はどれくらいでしたか。
複数参加された方は、参加したことがある「期間」をすべてお知らせください。
(いくつでも)

参加プログラムは「見学・体験型」=52.9%

- ▶ インターンシップで参加したプログラムは「見学・体験型」が52.9%で最も多く、「ミッション型」38.5%、「講義型」26.0%、「実務型」21.2%を上回った。

図. インターンシップで参加したプログラム(n=104/%)

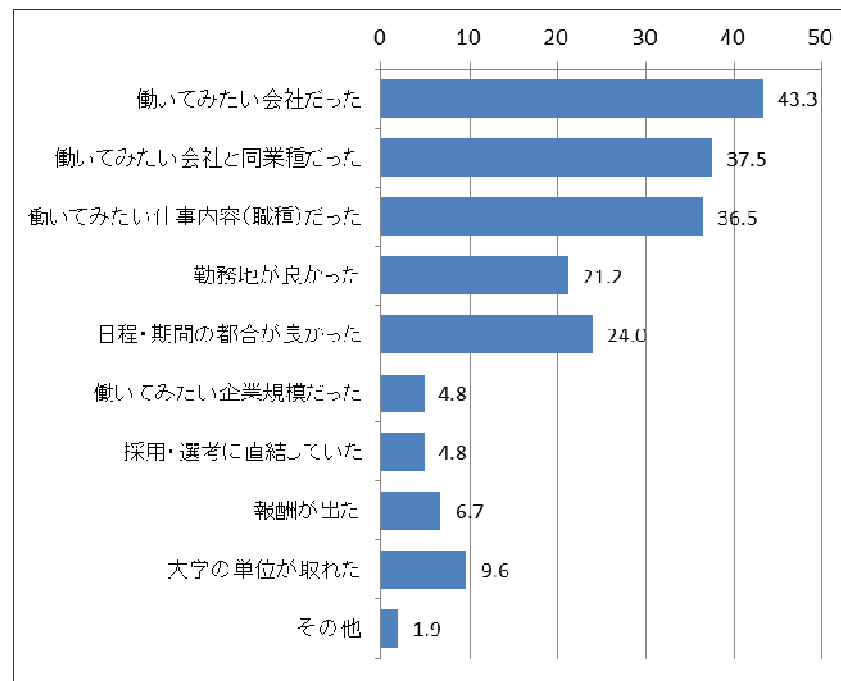


Q. 参加したインターンシッププログラムはどのようなタイプでしたか。
(いくつでも)

インターンシップ先企業は、「働いてみたい」会社・業種・職種(3~4割)

- インターンシップ先の企業を選んだ理由は、“働いてみたい”「会社」、「業種」、「職種」が3~4割で高い。勤務地や日程の都合が約2割である。
- 「報酬」や「単位取得」を選択理由に挙げた学生は、1割未満であった。

図. インターンシップ先企業の選択理由(n=104/%)

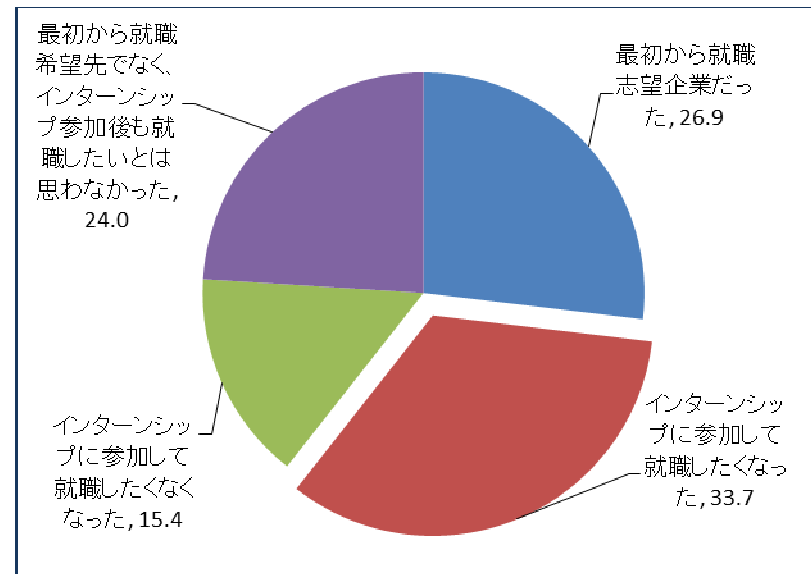


Q. インターンシップ先の企業を選んだ理由をすべてお知らせください。
(いくつでも)

インターンシップに参加して就職したくなった=33.7%

- インターンシップに参加した企業について、その後の就職意向の変化を聞いた。
- 「参加して就職したくなった」人が33.7%と、3人に1人がプラスに転じている。逆に「参加して就職したくなくなった」人は15.4%と少ない。
- 参加したことでプラスのイメージになっている学生が多く、この意識の変化は、インターンシップの参加価値が高いことを意味している。
- また、「最初から志望企業だった」人も26.9%あり、逆に「希望先でなく」インターンシップに参加した人も24.0%出現した。

図. インターンシップ後の就職意向変化(n=104/%)

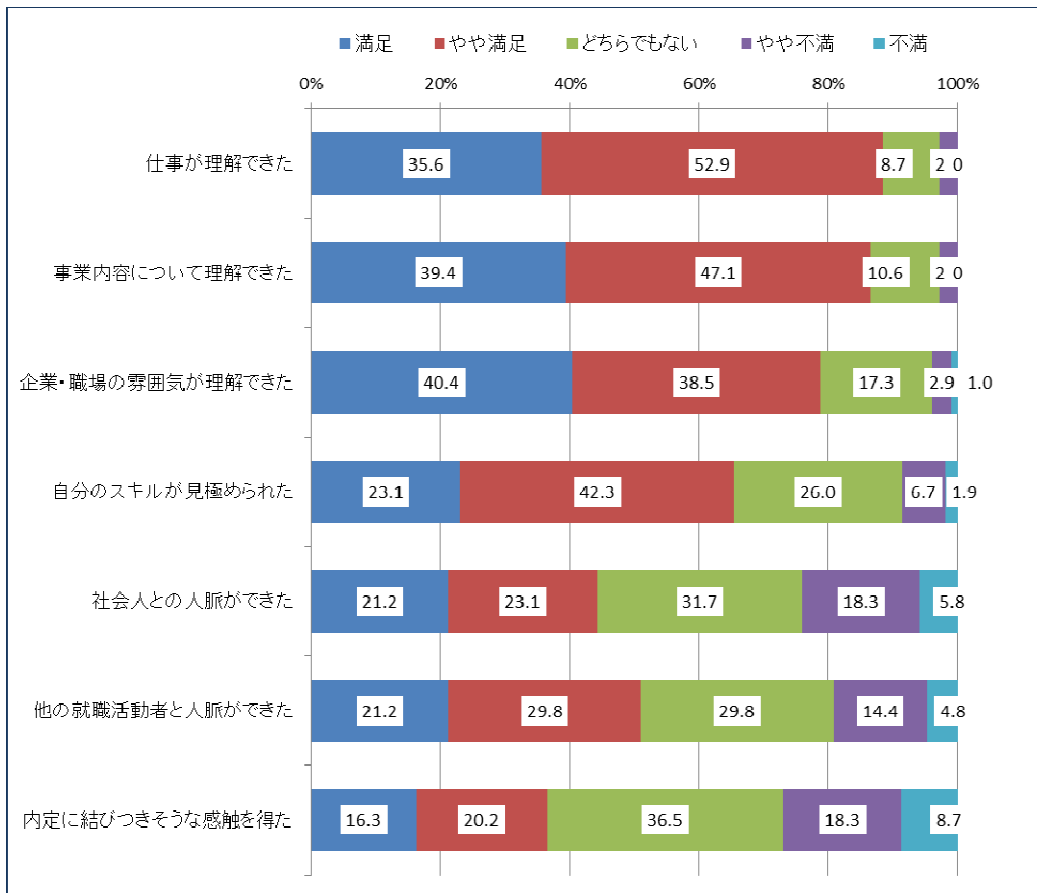


Q. インターンシップに参加した企業に就職したいと思いましたか。(1つだけ)

インターンシップに参加して「仕事が理解できた」=88.5%

- インターンシップに参加して、最も満足度が高かったのは「仕事が理解できた」で88.5% (満足+やや満足)。続いて「事業内容について理解できた」86.5%。
- 「企業・職場の雰囲気が理解できた」も満足度が高く、「満足」だけで40.4%に上る。
- 逆に満足度が低かったのが「内定に結びつきそうな感触を得た」27.0% (不満+やや不満)、「社会人との人脈ができた」24.1%である。

図. インターンシップの満足度(n=104/%)



自由回答

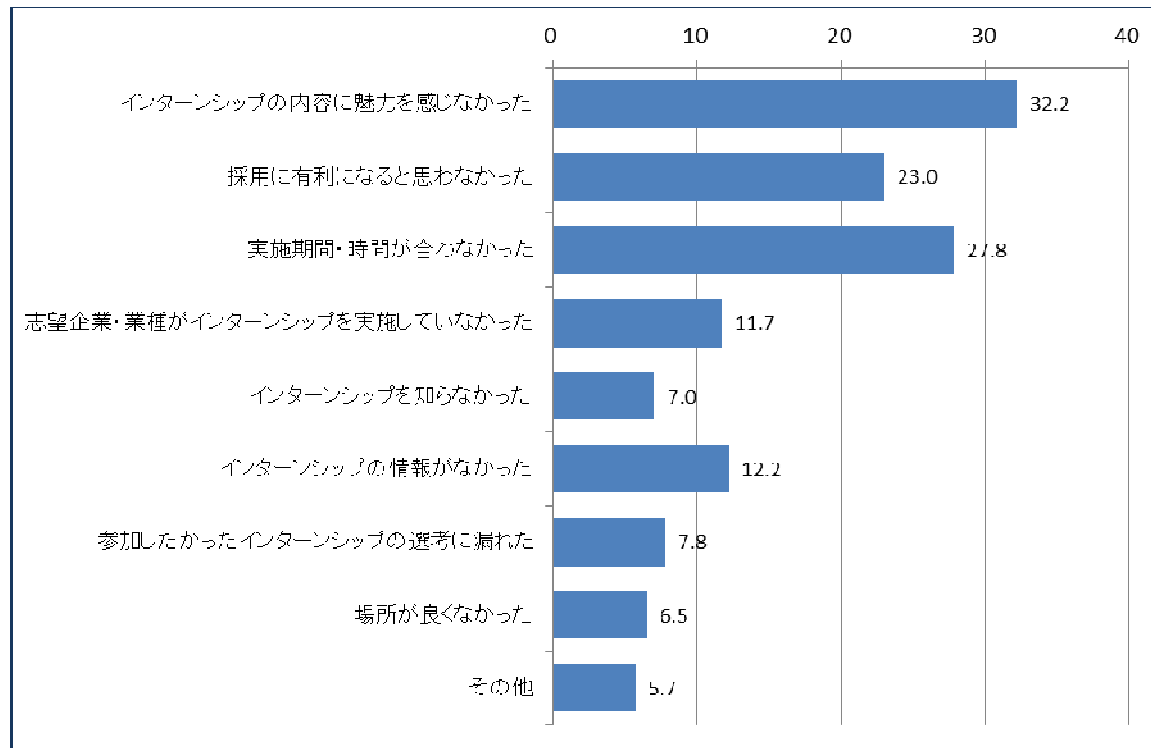
「インターンシップで子どもと関わったことで、客観的に大学生という立場を認識できた」「とても優しく指導していただき、有意義なインターンシップでした。職場の雰囲気が知ることができ、働くイメージがつかめました。」
 「自分の技能を試することができる。仕事内容が多いので、将来の仕事と自分をイメージできる」「社会人同様、朝9時からのインターンの会社もあったので、すぐ先の自身の社会人生活の予行になったこと。」など、働くことのイメージができ、満足された学生が多い。
 「為になる冊子をいただきました。」「営業に同行して、他の会社の社長に会って話すことができたこと。」「お弁当がでた。」「自分の企画が採用された」など、インターンシップ内容にも満足の声があがった。
 「就職活動をする心構えが出来た」「インターンシップでしか学べないことが多かったから興味の幅が広がった」「仕事内容については詳しくレクチャーしてくれたのでわかりやすかった。また、就職活動におけるキーポイントも教えてくれた点は満足だった。」など、先の就職活動に役立てられた学生もいた。

Q. インターンシップに参加してそれぞれの点での満足度を教えてください。(1つずつ)

インターンシップの内容に魅力を感じない=32.2%

- インターンシップに参加しない(しなかった)理由で、最も多かったのは「内容に魅力を感じなかった」32.2%であり、「採用に有利になると思わなかった」も23.0%と比較的高い。
- 「期間が合わなかった」27.8%、「実施していなかった」11.7%、「選考に漏れた」7.8%など、参加意向とは関係のない物理的な理由も多く挙がった。
- 大学の所在地別にみると、「インターンシップを知らなかった」「情報がなかった」の項目で、首都圏に比べ、近畿・東海が高い。
- また、「実施期間・時間が合わなかった」のは、「東海エリア」「国公立」「文系」の学生が多い。

図. インターンシップ不参加の理由(n=230/%)



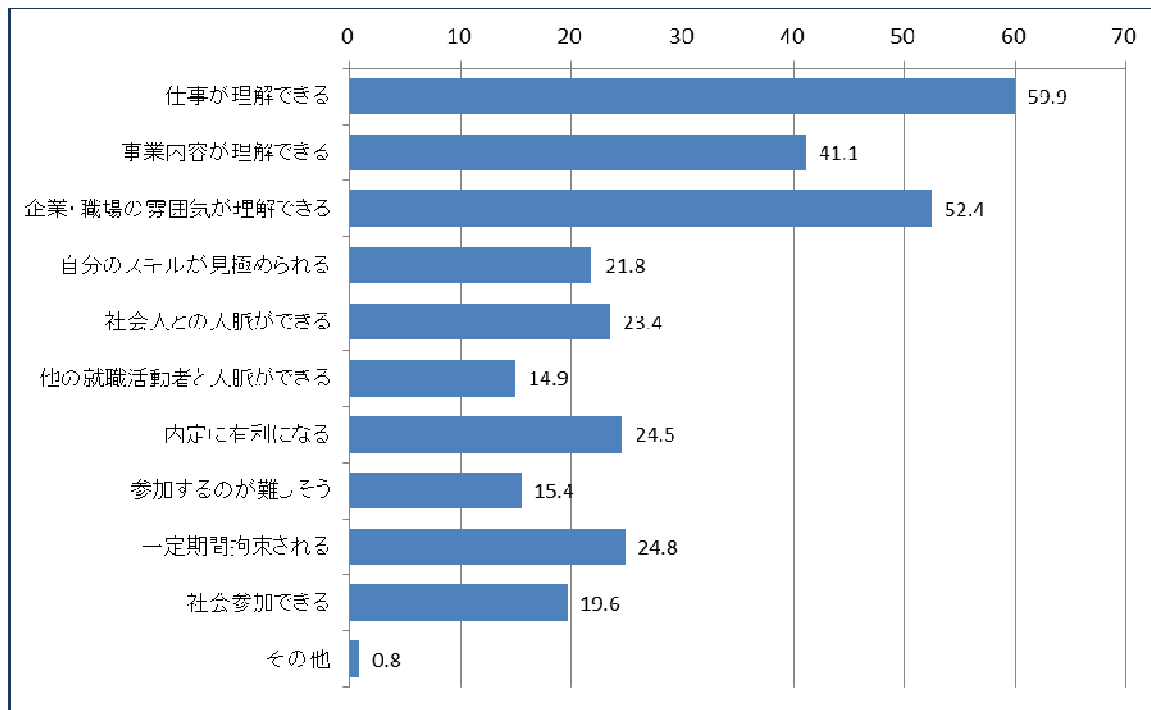
【大学所在地別】			【学校種別】			【専攻】	
首都圏	近畿	東海	国立	公立	私立	文系	理系
32.0	34.7	27.3	28.3	33.3	33.1	34.8	28.9
24.8	20.8	21.2	23.9	28.6	22.1	22.2	25.6
26.4	25.0	39.4	34.8	33.3	25.2	30.4	23.3
12.8	9.7	12.1	10.9	9.5	12.3	11.1	12.2
3.2	12.5	9.1	6.5	4.8	7.4	5.9	8.9
7.2	19.4	15.2	15.2	9.5	11.7	11.9	13.3
11.2	4.2	3.0	10.9	4.8	7.4	8.1	7.8
5.6	6.9	9.1	2.2	-	8.6	6.7	5.6
7.2	4.2	3.0	4.3	9.5	5.5	4.4	6.7

Q. あなたが、インターンシップに参加しなかった理由をすべてお知らせください。(いくつでも)

インターンシップのイメージは、「仕事が理解できる」=6割、「企業・職場の雰囲気が理解できる」=5割

- インターンシップは、「仕事」59.9%、「事業内容」41.1%、「企業・職場の雰囲気」52.4%が理解できるといったイメージが高い。
- 「社会人との人脈ができる」14.9%、「内定に有利」24.5%などは、あまり期待されていないようだ。
- インターンシップの体験者と非体験者と比較すると、体験者でより高いのは「仕事が理解できる」「事業内容が理解できる」「他の就職活動者と人脈ができる」であり、非体験者は「参加するのが難しそう」「一定期間拘束される」といったイメージ項目で高い。

図. インターンシップのイメージ(n=616/%)



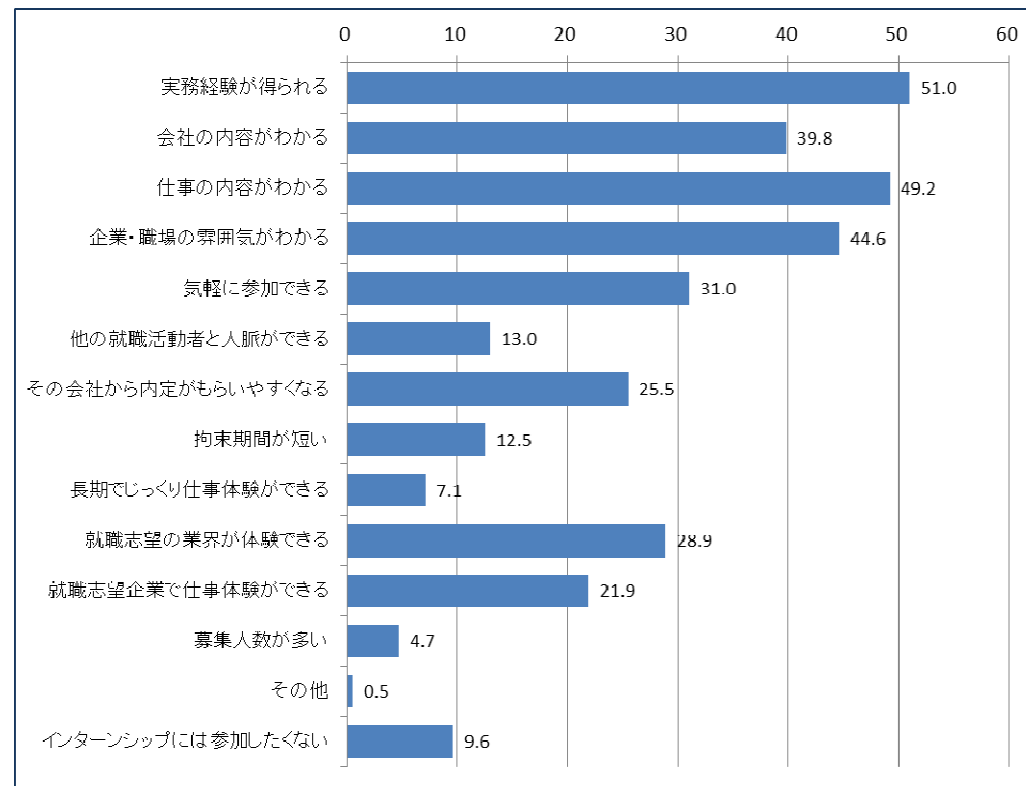
インターンシップ	
体験者	未体験者
71.2	57.6
52.9	38.7
56.7	51.6
21.2	21.9
21.2	23.8
25.0	12.9
20.2	25.4
7.7	17.0
18.3	26.2
17.3	20.1
0	1.0

Q. インターンシップと聞いてあなたが思い浮かべるイメージをすべてお知らせください。(いくつでも)

「実務経験が得られる」「仕事の内容がわかる」インターンシップに参加したい＝5割

- 参加してみたいインターンシップは、「実務経験が得られる」51.0%、「仕事の内容がわかる」49.2%、「職場の雰囲気がわかる」44.6%などが多く支持された。
- また、「業界が体験できる」28.9%、「仕事体験」21.9%も比較的多く回答された。

図. 参加したいインターンシップ(n=616/%)

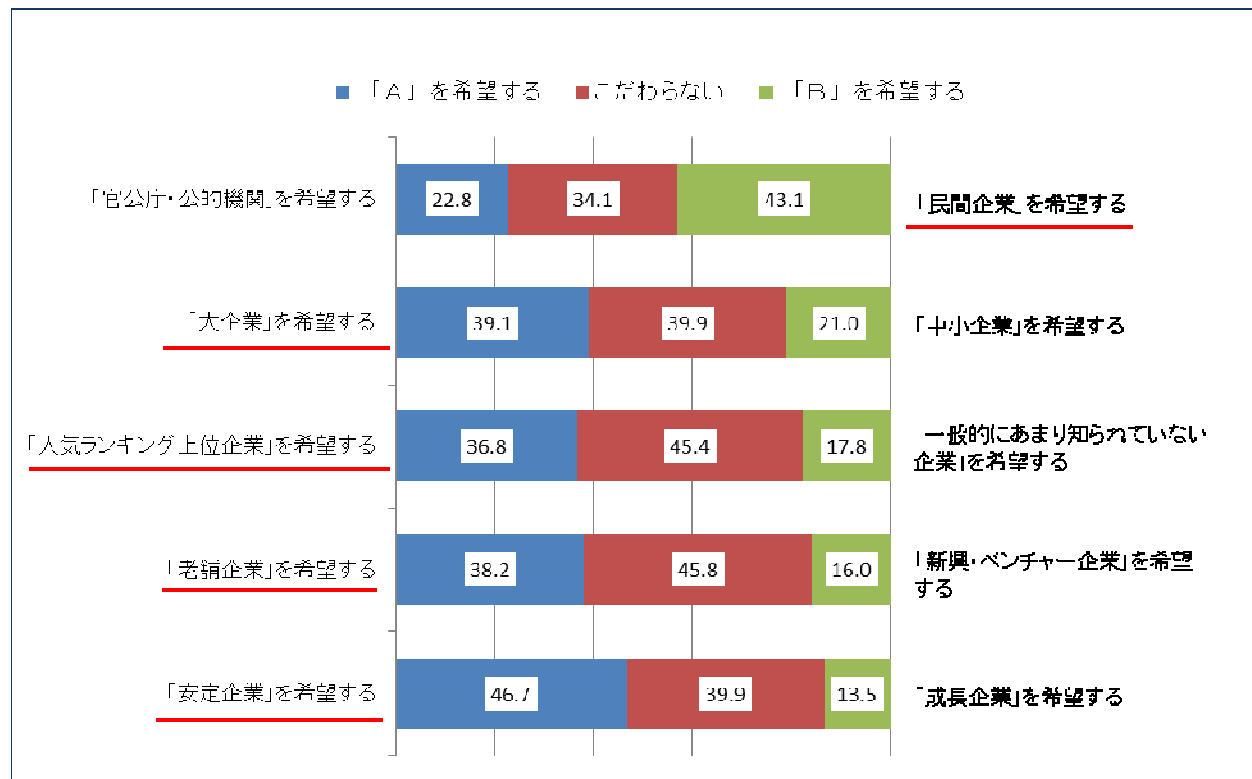


Q. あなたが参加してみたいインターンシップとはどんなものですか。次の中からすべてお知らせください。(いくつでも)

インターンシップには、「民間」の「安定企業」を希望するが、どの企業タイプでも「こだわらない」人が4~5割

- 相対する企業のタイプを比較させて、インターンシップに参加するならどちらを選択するかを聞いた。
- 「民間企業」「大企業」「人気ランキング上位企業」「老舗企業」「安定企業」を希望する人が、相対するタイプより多い結果であった。
- 逆にインターンシップ参加の希望が少ないのは「成長企業」「新興・ベンチャー企業」である。
- しかし、どの企業タイプでも「こだわらない」と回答した人が半数近くに及んでいることから、参加したい企業は、どのようなタイプにも及ぶと思われる。

図. インターンシップに参加したい企業(2つの企業タイプから選択)(n=557/%)

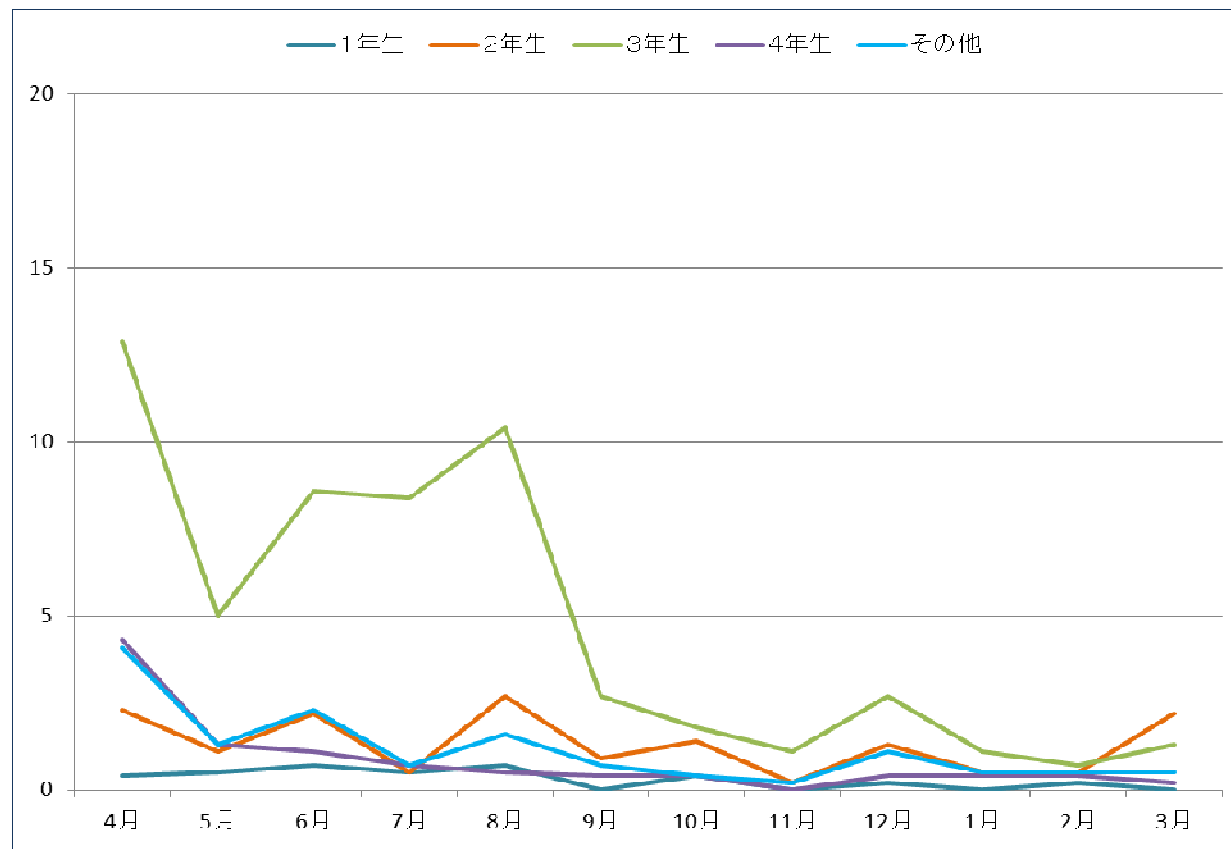


Q. あなたは、インターンシップ先として、AとBのどちらを希望しますか。(1つずつ)

インターンシップ先を探すのは、「3年生の4月～8月」

- インターンシップに参加するために、その受け入れ先を探し始める時期は、3年生の4月～8月頃が多い。
- 4年生の4月も若干あるが、それ以外はどれも少ない。

図. インターンシップ先を探し始める時期(n=557/%)

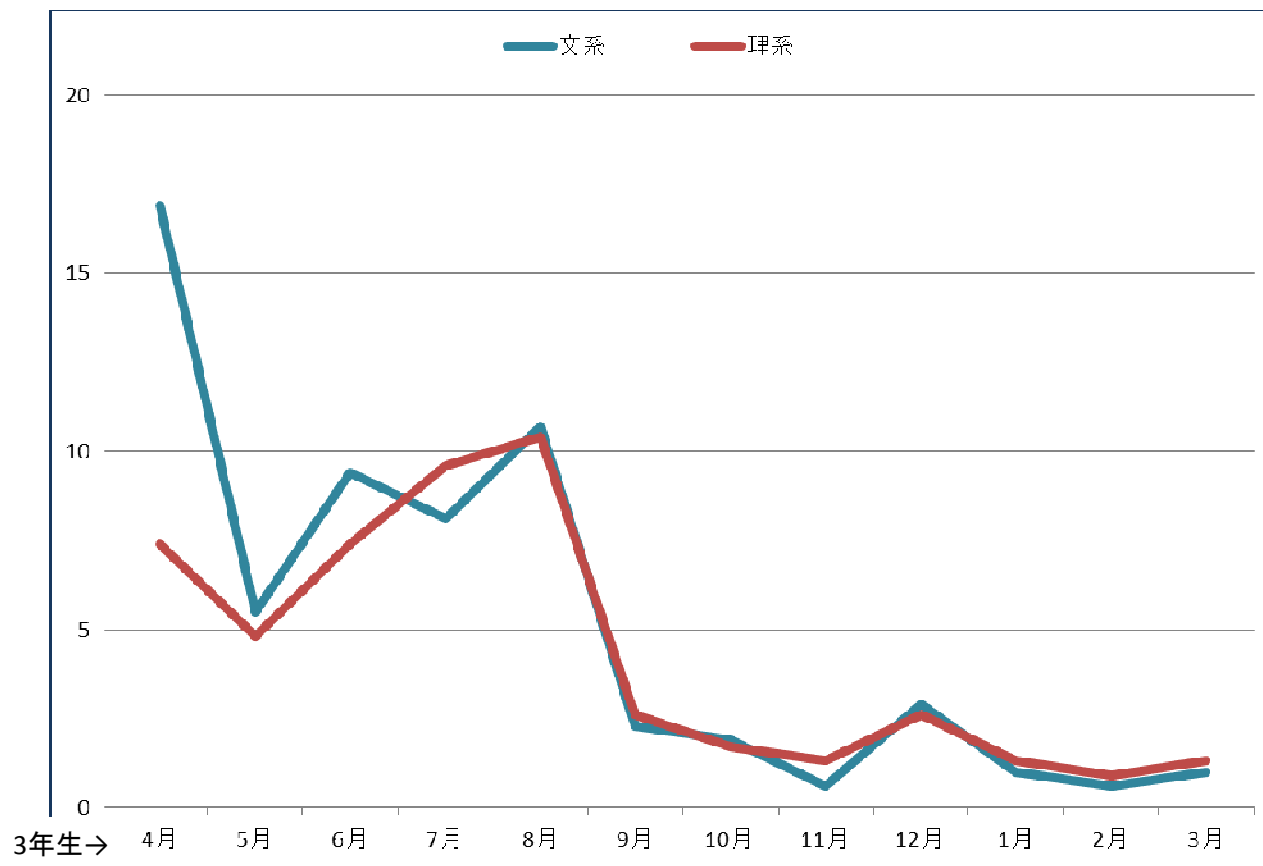


Q. インターンシップに参加するとしたら、いつ頃から探し始めますか(ましたか)。(1つだけ)

文系学生が「3年生の4月」をピークとしてインターンシップ先を探すのに対し、理系学生は「3年生の6月～8月」とやや遅れる

- インターンシップ先を探し始める時期は、3年生の4月～8月頃が多いが、文系では「3年生の4月」がピークで、「8月」まで続く。
- 一方、理系では「3年生の8月」がピークで、文系と比較してやや出足が遅れている。

図. インターンシップ先を探し始める時期(3年生の文・理別)(文系n=308 理系n=230/%)

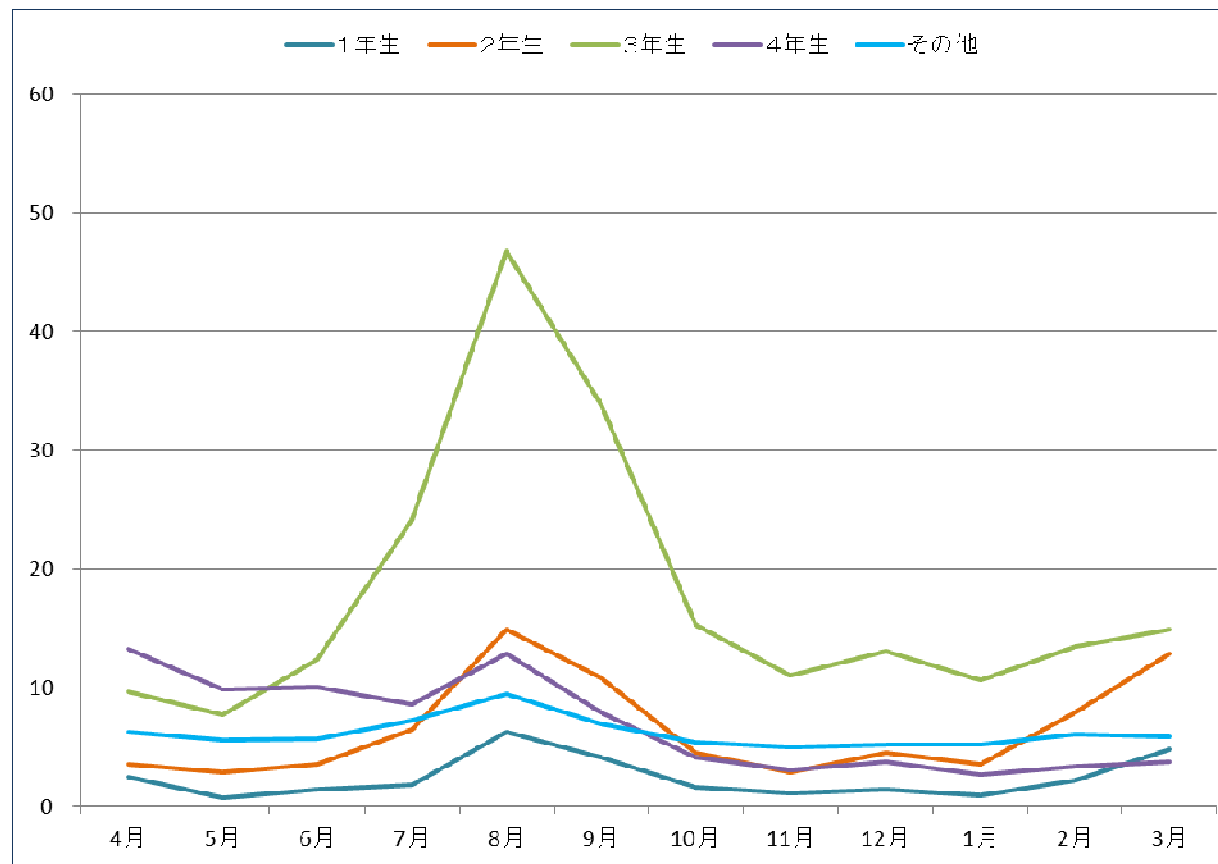


Q. インターンシップに参加するとしたら、いつ頃から探し始めますか(ましたか)。(1つだけ)

インターンシップへの参加時期は、「3年生の夏」

- インターンシップに参加する時期は、圧倒的に3年生の夏が多い。そのまま秋～冬にかけても10%以上の人が参加を考えている。
- それ以外では、2年生の夏、4年生の春・夏が10%強とやや高めであった。

図. インターンシップの参加時期(n=557/%)

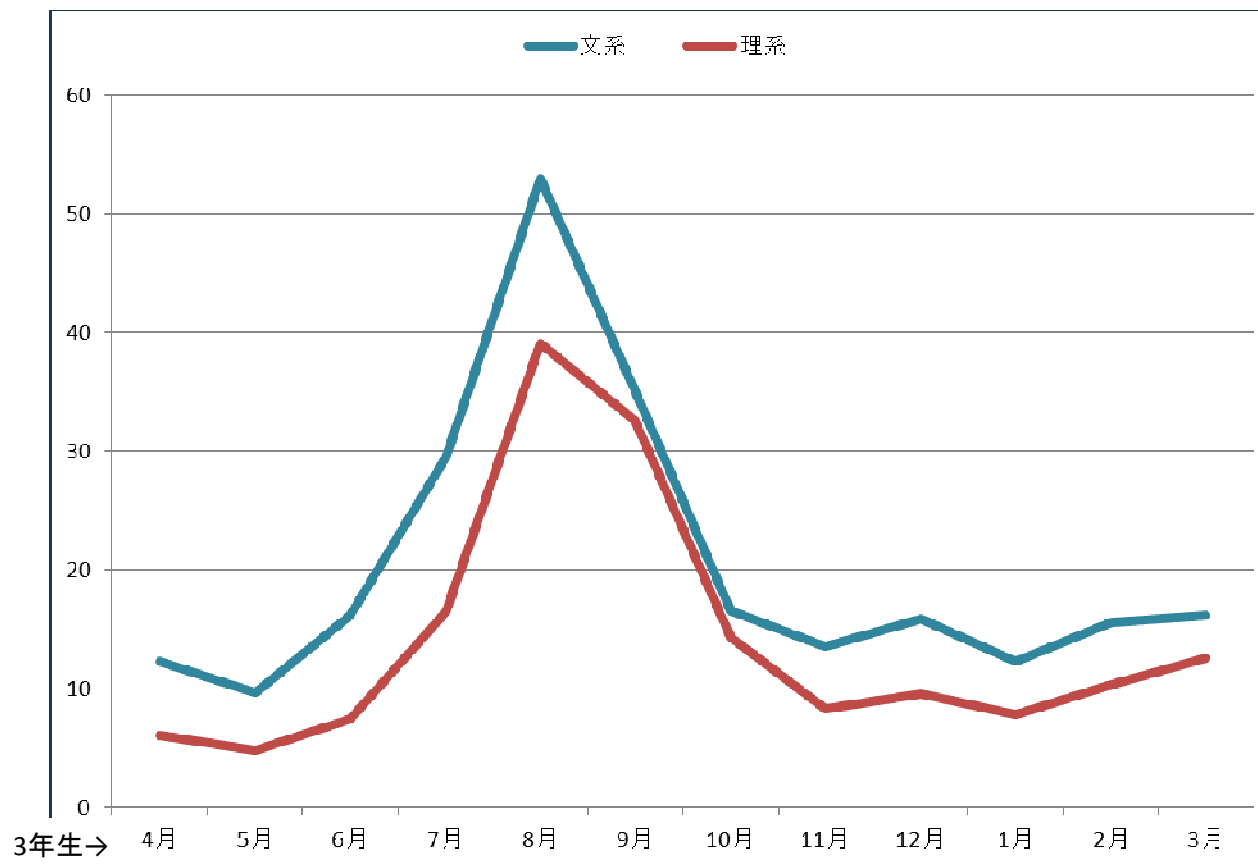


Q. インターンシップに参加するとしたら、いつ頃実施するプログラムを選択しますか(しましたか)。(いくつでも)

文系学生が「3年生の7~9月」にインターンシップに参加し、
理系学生は「3年生の8月~9月」とやや遅れる

- 文系では「3年生の7~9月」の参加が多いが、「8月」がピークとなる。
- 一方、理系では「3年生の8~9月」がピークと文系に比べやや遅れ、それ以外の時期もそれほど多くない。

図. インターンシップの参加時期(3年生の文・理別)(文系n=308 理系n=230/%)



Q. インターンシップに参加するとしたら、いつ頃実施するプログラムを選択しますか(しましたか)。(いくつでも)